

策定年月	令和5年4月
見直し年月	令和6年5月

麦・大豆国産化プラン

産地名：高島市

（作成主体：高島南部地域麦・大豆生産協議会）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

高島市は米を中心とする水田農業を基幹とし、需要の変化に柔軟に対応する米作りと合わせ、自給率の向上が求められる麦・大豆について生産性向上及び本作化を進めるとともに、非主食用米や園芸品目等との組み合わせによる農業所得の向上を図り、時代の変化に応じた力強い水田農業を確立することが求められている。

高島市の麦・大豆生産は、平成6年産に作付面積が大きく減少していたが、平成30年産に行政による生産数量目標の配分がなくなったことや米価下落の影響を受け、麦・大豆を本作として位置づけ生産拡大する機運が高まっている。

麦・大豆の生産拡大にあたり、実需者と密接に連携し需要が見込まれる品種への導入・転換を図るとともに、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする団地化等を推進し、生産性の高い麦・大豆産地づくりを実現する。

(1) 生産の現状と課題解決に向けた取組方針

・麦生産の現状と課題

高島市における麦栽培は、大麦が中心で、作付面積は約100haで作付割合は2.2%、単収は約300kg/10a程度と低い状況にある。

主食用水稲以外では、加工用米や飼料用米、WCS用稲が栽培されているが、作業が集中し、作業の遅れや用水不足が深刻となりつつある。

実施主体においては、構成員の大部分が作付面積20haを超える農家および法人で、周辺農家の高齢化や離農により作付面積が拡大傾向となっており、労力分散を図るため、令和6年産より水稲から麦への転換が求められている。

作付品種は平成4年産以前は六条大麦(ファイバースノウ)であったが、令和5年産に需要が高く収量性が見込める小麦「びわほなみ」への転換を開始。令和6年産より作付面積拡大を進めているが、取組を始めたところであり、生産者間で栽培技術にばらつきがあるため、技術向上および平準化が喫緊の課題である。

・大豆生産の現状と課題

高島市における大豆作付面積は、近年140ha程度で推移しており、水田面積に占める割合は3.2%と県平均の14.9%と比べて少ない。

また、県域では麦・大豆の体系が多いが、当地域においては大豆単作の割合が多い。

単収は87kg/10a(令和2～4年の3か年平均)と県平均の137kg/10a(同平均)と比べて低い。

実施主体においては、麦類と同様に、構成員の大部分が20haを超える農家および法人で、周辺農家の高齢化や離農により作付面積が拡大傾向にあるため、労力分散を図るため、大豆への転換が求められている。また、麦の二毛作として大豆が作付されており、麦の作付拡大と連動して、大豆の作付面積が拡大することを想定している。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

(2) 課題解決に向けた取組方針

畑作物で収益性が高い麦類の作付けを増やし、明渠や心土破碎等による湿害対策や団地化の推進により、単収の確保を図る。

① 団地化の推進

麦類・大豆ともに、作付面積が少なくほ場が点在する傾向にあるため、まず、作付面積を拡大することにより団地化率の向上を図る。併せて、産地交付金や水田麦・大豆産地生産性向上事業等を活用し、生産者および集落への啓発により団地化への意識づけや、他地域の事例紹介等を行い、集落ぐるみによる団地化およびブロックローテーションの取組を支援する。

② 栽培技術の向上

新たに作付けを始める生産者が多いので、技術実証ほの設置や栽培栽培研修会、情報交換会の開催により構成員の技術向上および平準化を図る。

③ 土づくり

水田転換畑による栽培が主であるが、栽培回数が増えるにつれ地力が低下するため良質な有機物の施用が必要である。地力の回復に向けて、地力分析結果に基づきコンポキスター等を利用して堆肥を施用するとともに、土壌診断による適正な施肥と後期重点施肥の実践により収量向上につなげる。

④ 排水改良

麦・大豆は過湿に弱く、発芽不良や生育不良の原因となる。排水不良による苗立の改善、生育促進に向けて、溝堀機やサブソイラーの導入をすすめ、明渠や弾丸暗渠、心土破碎等の施工を進めるとともに、その効果的な施工方法を指導する。

⑤ 作業機械の導入による作業効率化および面積拡大

新たに麦作や大豆を開始する生産者や作付面積を拡大する生産者に対して、作業効率化と適期作業による品質向上を図るため、施肥播種機、収穫機、溝堀機、サブソイラー、農業用ドローン、乗用管理機等の導入を進め、作業効率化を図り、さらなる面積拡大につなげる。併せて、適期作業を励行することにより品質向上を図り、出荷先の信頼を得ることにより出荷安定を図る。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、運作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦類については、六条大麦「ファイバースノウ」が主食用途として生産されているが、地域の生産量は実需の要望に応えることができてない。

・大豆については、煮豆用に「オオツル」が、また、味噌や豆腐用に「ことゆたか」が栽培されているが両品種とも地域では生産量が不足しており、実需の要望に応えられていない。

(2) 課題解決に向けた取組方針

・麦類については、実需者の需要情報を的確に把握するとともに、供給量が不足している小麦への転換を図りミスマッチを解消する。

品種は収量性および製麺適性の高い「びわほなみ」を主に推進する。

・大豆については、需要に対して供給が足りない状況にあることから、安定生産を図るため排水対策等の基本技術の励行による収量向上と併せて、作付拡大を推進する。

産地名：高島南部地域麦・大豆生産協議会						
現状(令和5年産)						
	品種	作付面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(kg)	出荷先	(全農の卸先)
小麦	びわほなみ	1.6	367	5,871	JA全農しが	
目標(令和10年産)						
	品種	作付面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(kg)	出荷先	(全農の卸先)
小麦	びわほなみ	105.2	450	473,400	JA全農しが	

産地名：高島南部地域麦・大豆生産協議会

現状(令和5年)						
	品種	作付面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(kg)	出荷先	(全農の卸先)
大豆	ことゆたかA1号 オオツル	15.2	124	18,898	JA全農しが	
目標(令和8年)						
	品種	作付面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(kg)	出荷先	(全農の卸先)
大豆	ことゆたかA1号 オオツル	43.5	150	65,250	JA全農しが	

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

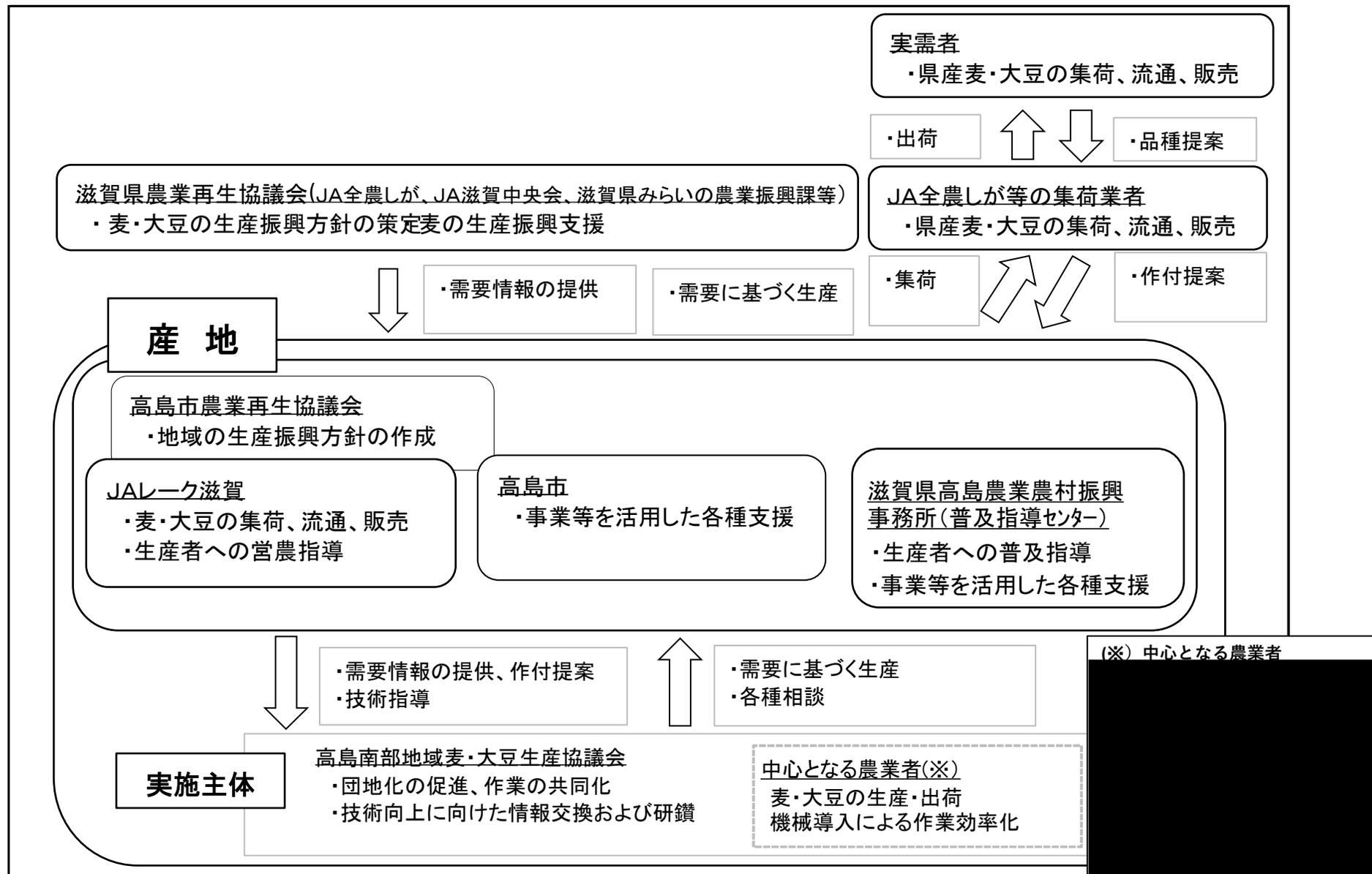
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。

高島南部地域表・大豆生産協議会構成員及び小麦・大豆作付計画

小麦「びわほなみ」

現状 事業実施

目標

	構成員	令和5年産	令和6年産	令和7年産	令和8年産	令和9年産	令和10年産	R10-R5
1		0.6ha	4.4ha	4.5ha	4.5ha	4.5ha	4.5ha	3.9ha
2		0.4ha	8.7ha	10.0ha	13.0ha	19.0ha	19.0ha	18.6ha
3			1.4ha	3.0ha	5.0ha	9.0ha	9.0ha	9.0ha
4			1.2ha	2.9ha	6.3ha	6.3ha	6.3ha	6.3ha
5			5.2ha	8.4ha	13.0ha	9.0ha	9.0ha	9.0ha
6		0.6ha	4.8ha	4.8ha	4.8ha	4.8ha	4.8ha	4.2ha
7			23.6ha	23.9ha	23.6ha	23.9ha	23.9ha	23.9ha
8			2.2ha	5.0ha	7.0ha	7.0ha	7.0ha	7.0ha
9			3.4ha	8.0ha	13.0ha	15.0ha	15.0ha	15.0ha
10			2.2ha	2.5ha	2.5ha	2.5ha	2.5ha	2.5ha
11				0.6ha	0.6ha	2.0ha	2.0ha	2.0ha
12				0.6ha	1.0ha	2.2ha	2.2ha	2.2ha
13								
	合計	1.6ha	57.1ha	74.2ha	94.3ha	105.2ha	105.2ha	103.6ha

大豆

現状 事業実施

目標

	構成員	令和5年産	令和6年産	令和7年産	令和8年産	令和9年産	令和10年産	R8-R5
1		2.9ha	4.0ha	4.0ha	4.0ha	4.0ha	4.0ha	1.1ha
2		0.9ha	8.7ha	10.0ha	15.0ha	15.0ha	15.0ha	14.1ha
3								
4								
5								
6		2.8ha	4.8ha	4.8ha	4.8ha	4.8ha	4.8ha	2.0ha
7		2.6ha	11.0ha	11.9ha	11.9ha	11.9ha	11.9ha	9.3ha
8								
9			0.6ha	0.9ha	1.2ha	1.2ha	1.2ha	1.2ha
10								
11				0.6ha	0.6ha	0.6ha	0.6ha	0.6ha
12								
13		6.0ha	6.0ha	6.0ha	6.0ha	6.0ha	6.0ha	
	合計	15.2ha	35.1ha	38.2ha	43.5ha	43.5ha	43.5ha	28.3ha

※令和5年度国産化プラン

産地名:高島南部地域麦・大豆生産協議会

現状(令和4年産)					
	品種	作付面積(ha)	生産量(kg)	出荷先	(全農の卸先)
大麦	ファイバースノウ	8.6	37,602	JA全農しが	
小麦	びわほなみ	0.3	2,193	JA全農しが	

目標(令和8年産)					
	品種	作付面積(ha)	生産量(kg)	出荷先	(全農の卸先)
小麦	びわほなみ	86.5	389,250	JA全農しが	

高島南部地域麦・大豆生産協議会構成員及び小麦作付計画

小麦「びわほなみ」		構成員	令和5年産	令和6年産	令和7年産	令和8年産	R8-R5	R4大麦	R4大豆
1			0.6ha	4.2ha	4ha	4ha	3.4	2.9	2.3
2			0ha	0.8ha	2.5ha	2.5ha	2.5		0.87
3			0.4ha	1.6ha	2.5ha	2.5ha	2.1		0.1
4			0ha	1.3ha	10ha	10ha	10.0		
5			0ha	1.2ha	2.5ha	6ha	6.0		
6			0ha	5.2ha	7ha	13ha	13.0		
7			0.6ha	4.8ha	6ha	6ha	5.4	3.9	2.456
8			0ha	24.2ha	20ha	20ha	20.0		2.34
9			0ha	1.9ha	5ha	7ha	7.0		
10			0ha	3.1ha	7ha	13ha	13.0	0.7	
11			0ha	3.3ha	2.0ha	2.5ha	2.5		
		合計	1.6ha	51.6ha	68.5ha	86.5ha	84.9	7.4	8.1